

2015年11月25日 Vol.8

今年も師走はIPOのラッシュ

2015年も残すところ1か月余り。何かと気忙しい日々が続く師走を迎えようとしています。昨年同様、IPO市場も慌ただしい年の瀬となりそうです。今年のIPO銘柄数は2月12日のKeepertech（6036）から12月25日の一蔵（6186）まで93社。昨年の77社から16社増加します。株式相場が上向いていることを背景にIPO企業数はリーマンショックで落ち込んだ2009年の19社をボトムに順調に増加傾向が見られます。

その中には本年11月の日本郵政グループ3社のような国の事業が民営化され株式上場に至った特殊な事例もありますし、リクルートなどのように既に知名度が高く、ビジネス基盤が明確に出来上がった企業の上場もありました。一方で、多くのIPO企業は、比較的設立が若く、マザーズなど新興市場への上場を果たしたことで認知度が高まるとともに、人材の採用を積極化させ、ビジネスの好循環につなげながら、新たな成長を目指そうとしています。投資家はそうしたIPO企業の未来を予見しながら評価し、リスクマネーを投じて株価を形成。需給の偏りから乱高下しがちなIPO市場に資金を投入してリターンを求めるホットマネーがあちらこちらで奔走しています。

3600社余りの上場企業のうち2011年以降の累計上場企業数は300社を超えようとしており、全体のおよそ8%が過去5年間にIPOした企業で占める状態となっています。一方では、ビジネスの栄枯盛衰もあり市場から消えていった企業も見られ、株式市場の新陳代謝を促進する結果となっています。日本経済の基幹インフラとも言える株式市場に独自のビジネスモデルやビジネスノウハウを背景に成長企業が誕生することは日本の将来を占う上でも、とても重要な意味があります。1990年代から2000年代にかけ株式市場にIPOを果たし、その後大きく成長を辿ったソフトバンクやファーストリテイリング、楽天といった企業に続く、成長余力の大きなIPO銘柄が、こうした中から誕生してくると見れば投資家の皆さんの楽しみも増す筈です。

さて、12月には一気に19社がIPOしてくる予定です。この数は昨年の28社に比べると少ないのですが、本年3月の15社に比べると4社多く、まさに師走のIPOラッシュと言っても良いでしょう。車の自動運転で上場の噂があったZMPのIPOが今年はなくなりましたが、19社のうち、かつて上場していたツバキ・ナカシマ（6464）が再上場。オムロンからMBOで上場するフリー（6238）も東証1部に上場するほか、ランドコンピュータ（3924）やケイアイスター不動産（3465）、一蔵（6186）が東証2部に上場予定。このほかミズホメディー（4595）、プロパティエージェント（3464）がJASDAQ市場に、アートグリーン（3419）がセント

東京 IPO 特別コラム

レックス市場への上場を予定しています。9日のラクス（3923）や15日のダブルスタンダード（3925）など残りの11社は東証マザーズ市場へ上場予定しており、17日から25日にかけては1日に2社、3社のIPOが予定されています。国内外の景気情勢や政治・軍事情勢から市場動向に変調をきたし、需給悪化に陥るといった懸念が生じやすい中で、2016年を迎える直前の2015年師走のIPOラッシュが市場の活性化につながるとポジティブな見方をしているのは私だけではないと思います。

（東京 IPO コラムニスト 松尾範久）